

欠席委員からのご意見

○大井健次委員

- ・ 治水対策については過去から色々取り組んでいるが、現状や昨今の災害の発生を踏まえると、今後も継続して実施していく必要があると考える。ただし、それだけではなく、個々の地域の自然、歴史、気候、文化、景観等、様々な特性を踏まえ、バランスをとって実施することが大切である。その際、住民等の関係者や学識経験者、行政はそれぞれ意見があり、まとめることは簡単ではないが、一体となってスピーディに行うことが求められている。例えば、行政は自分の殻に閉じこもって検討し、その結果、最終案だけを示すのではなく、途中段階の案を提示し、関係者から意見を聴きながら進める方法もあるだろう。
- ・ 広島街は、他の大河川のダイナミックな景観ではなく、太田川、広島湾が一体となった盆栽風の日本的な景観を有している。また江山一覽図を見ると、古くから雁木、常夜灯や、芦原、松などを有する良好な景観が形成されていた。河川の流域は広いので画一的な取り組みではなく、個々の地域の特性を踏まえた取り組みを行うことが大切である。

○関太郎委員

- ・ 太田川流域は、例えば北広島町では太田川流域（瀬戸内海）と江の川流域（日本海）をまたいで文化、生活圏が形成されている。また地形的には、渓谷である三段峡の上流に八幡高原が存在するなど、上流にも市街地が形成されている。こういったことは、四国の河川ではあまり考えられないことであり、文化、地形やその他にも地質、生物など、非常にユニークな特徴を多く有している。
- ・ 最近では、地球温暖化の影響か、雨の降り方が激しくなったり、海面が上昇したり、災害に対して危険になっているように感じる。
- ・ 地域の住民との交流のためには、核となる施設が必要かと思う。ダムには資料館のようなものがあるが、河川（太田川）自体にはない。
- ・ 太田川の水は、瀬戸内海の島々まで水道水として送られているなど、広島地域の生活を大きく支えている。そして、この水は太田川の上流域から流れてきている。住民、行政をはじめ関係者は、太田川の上流域に支えられていることを意識し、流域全体として考えていくことが大切ではないか。
- ・ 河川水辺の国勢調査（植物）では太田川の第1回調査（平成4年度）よりアドバイザーとして参加し、これまで3回調査した。また、「太田川生物誌」（2005）（太田川河川事務所編）にも参画し、その生物相の多様性を実感した。